

ヒメジャコ放流技術指導

担当普及員 平手 康市

1. 課題名 ヒメジャコ放流技術指導

2. 現状 (概要等)

今帰仁漁協ではウニ漁業の就業者が多く、流通対策や資源管理の観点から他業種への転換または複合化を計画し、ヒメジャコの放流事業を開始した。

3. 目的

資源管理型漁業への取り組みの一環で今帰仁漁協がヒメジャコの放流を実施したので、放流技術指導を行なった。

4. 協力者

今帰仁漁協 新城

今帰仁村

本部漁協 前田参事 (エアードリル借用手配)

5. 活動方法

平成元年に普及所が発行した「ヒメジャコ放流

の手引き」に従い、エアードリルネットピース法でヒメジャコ種苗を放流した。

6. 結果

放流後の詳細な追跡調査はまだ実施していないが、歩留まりが悪いように思われる。原因としては、水産試験場八重山支場から放流種苗を受け取った後、海況不良のため約2週間にわたって陸上で流水を注入して保管した事と、放流場所を選定した地域の石灰岩がかなり緻密でネットピースの装着に難航したことから、放流後にネットピースが脱落し、ヒメジャコ種苗が食害された事が考えられる。

7. 次年度への展開

放流後の追跡調査を実施して、次回の放流では放流場所についても再検討し、引き続き指導を行なう必要がある。

